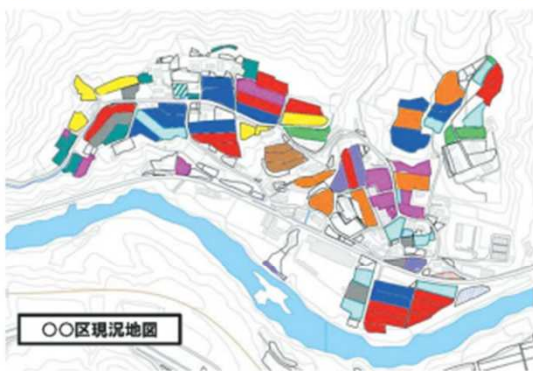


委員向け手引きを作成し策定までの活動内容を明確化（京都府京丹波町農業委員会）

耕作者名一覧		(○○)区	
番号	色	耕作者名	意向(委員メモ)
1	(法)	京カ農園	◎(地区内農地希望)
2	(法)	プランの里	○
3		京丹波 一郎	△(●●3筆)
4		瑞穂 よしお	○
5		和知 みどり	×(97歳、売りたい)
6		農地 ほうき	×
7		山川 スミ子	○(90歳)
8		田畑 まもる	○
9		大地 二郎	○
10		咲田 はな	△
11		京波 一男	○
12		和 こうさく	○
13		耕作者なし所有者不明	
14		都 いくお	×(区外所有者)
15		風 みずほ	◎(新規就農者)

意向確認表示	
◎	経営拡大意向
○	当面現状維持=耕作意向
△	経営縮小
×	経営廃止意向=後継者・担い手なし

京都 京丹波町農業委員会



耕作者名一覧(左)と現況地図(上)の記載例(「手引き」4頁)

地域計画の策定に向け、「委員活動の手引き」作成

「活動のポイント」具体的に例示
同町では、旧村単位の全10地区で来年度末までに地域計画を策定するため、農業委員会の委員が町内93集落の区長・農家組合長などと協力して農業者(出し手・受け手)の意向を反映した現況地図の作成を開始した。

現況地図で「話し合い」を推進中!

<ポイント>

○委員向け手引きを作成し、現況地図を作る方法や話し合い~策定までの活動のポイントを具体的に例示

○手引きはこちら↓
(パート1)

<https://www.nca.or.jp/iin/ews/uploads/2024/04/パート1.pdf>

(パート2)

<https://www.nca.or.jp/iin/ews/uploads/2024/04/パート2.pdf>

京丹波町農業委員会(山田進会長)は、地域計画策定に向けて「京丹波町版委員活動の手引き」を作成し、全41委員(農業委員19人、農地利用最適化推進委員22人)が担当地区で現況地図の作成を開始した。

「活動のポイント」具体的に例示

同町では、旧村単位の全10地区で来年度末までに地域計画を策定するため、農業委員会の委員が町内93集落の区長・農家組合長などと協力して農業者(出し手・受け手)の意向を反映した現況地図の作成を開始した。



「農業委員会だより」最新号で地域計画をPR

農地として守る範囲と農地1筆ごとの利用者を話し合い、25年3月までに地域計画を策定するまでの「活動のポイント」が具体的に例示されており、「分かりやすいし、これならできる」と委員に好評だ。
町と農業委員会は、7月3、4、7の3日間、和知・瑞穂・丹波の3地区(08年3町合併前の旧町ごと)で説明会を開催し、各集落の役員と協力して推進する体制が整った。農地利用状況調査(7~8月)の結果も踏まえて「地域の話し合い」で地図の精度を高めていく取り組みが本格的に始まっている。

年4回「活動強化月間」を設定

町農業委員会は、本年度4回の「活動強化月間」を設定し、全委員が毎月10日以上最適な活動記録を提出している。農業委員と推進委員による全体会議を毎月開催し、委員全員で最適化活動の報告と活発な意見交換を行っている。
来年度2月の改選前に今期の委員で成果を出すため、「現況把握月間」(5~6月)に担当地区で農地の現状と農家意向の把握を行い、農地利用状況と意欲的だ。

町農業委員会は、本年度4回の「活動強化月間」を設定し、全委員が毎月10日以上最適な活動記録を提出している。農業委員と推進委員による全体会議を毎月開催し、委員全員で最適化活動の報告と活発な意見交換を行っている。
来年度2月の改選前に今期の委員で成果を出すため、「現況把握月間」(5~6月)に担当地区で農地の現状と農家意向の把握を行い、農地利用状況と意欲的だ。